

第50回全国育樹祭 基本計画



第50回 全国育樹祭 あきた 2027
緑育てる小さな一歩 未来へつながる大きな希望

令和8年3月



秋田県

目 次

第1章 全体計画

1 全国育樹祭の目的	2
2 秋田県での開催状況	2
3 第50回全国育樹祭の開催理念	4
4 大会テーマ	6
5 大会シンボルマーク	6
6 大会ポスター(原画)	6
7 開催概要	7
8 開催場所詳細	8

第2章 運営計画

1 運営体制	9
2 輸送計画	9
3 宿泊計画	9
4 警備・警護	10
5 救護・衛生	10
6 消防・防災	10
7 参加者サービス	10
8 物産等展示・販売	10
9 記念品等	11
10 昼食	11
11 雨天・荒天時等対応計画	11

第3章 お手入れ行事計画

1 会場の概要	12
2 会場整備・設営	13
3 お手入れ行事参加者	14
4 お手入れ行事の概要	14

第4章 式典行事計画

1 会場の概要	15
2 会場設営	16
3 式典参加者	17
4 式典行事の概要	17
5 会場計画図	19

第5章 併催行事計画

1 育林交流集会	20
2 全国緑の少年団活動発表大会	20

第6章 記念行事計画

1 記念行事	21
--------	----

第7章 その他

1 懇談会(歓迎レセプション)	22
2 広報・協賛等	22

1. 全国育樹祭の目的

全国育樹祭は、「継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発し、国民の森林に対する愛情を培うこと」を目的に、昭和52年から、全国植樹祭を開催したことのある都道府県において、公益社団法人国土緑化推進機構との共催で毎年秋に行われている全国行事です。

全国植樹祭において天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木に、皇族殿下が枝打ちなどのお手入れをなされるシンボリックなお手入れ行事に加え、皇族殿下からのおことばをいただくほか、各種表彰等の式典行事が催されます。

2. 秋田県での開催状況

本県では過去に、全国植樹祭が2回、全国育樹祭が1回、開催されています。

昭和43年に仙北市（旧田沢湖町）で開催された第19回全国植樹祭は、林業県秋田にとって長年の懸案であった、「入会林野の整備と拡大造林の推進」をテーマに、4万本におよぶ秋田スギの植樹や記念式典等が行われ、複雑な権利関係により荒廃した未利用地の解消と植林意欲を喚起し、拡大造林を推進する契機となりました。

昭和53年の第2回全国育樹祭は、仙北市（旧田沢湖町）田沢湖畔にある「県民の森」において、皇太子同妃両殿下をお迎えして開催し、「育樹できずこころの郷土」をテーマに、秋田スギの枝打ちや記念式典等が行われ、除間伐などの保育活動を推進する契機となりました。

平成20年には、本県2回目となる第59回全国植樹祭が、北秋田市「県立北欧の杜公園」を会場に開催され、「手をつなごう 森と水とわたしたち」をテーマに、子供たちから大人まで幅広い世代が参加し、ふるさとの水と緑を守り育み、未来へ引き継いでいくことを開催理念として、自然との共生、森林づくりの大切さを発信する大会となりました。

第19回全国植樹祭

【開催概要】

- テー マ 入会林野の整備と拡大造林の推進
- 開催日 昭和43年5月19日（日）
- 参加人数 14,500人
- 会場 仙北市（旧田沢湖町：大森山）※現在の「県民の森」



【式典開催状況】



【お手植えのご様子】

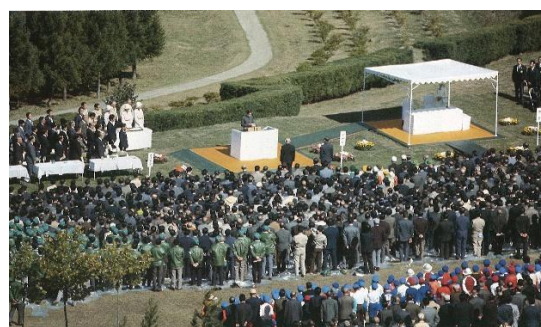
開催日の3日前に発生した十勝沖地震によって、ご出席が取りやめとなりました。前日、皇居で鉢にお手植えされた苗木は、後日式典会場へ運ばれ、移植されました。

第2回全国育樹祭

第19回全国植樹祭において天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木への、皇太子同妃両殿下による施肥や各種行事が、第2回全国育樹祭として行われました。

【開催概要】

- 大会テーマ 育樹できずこゝろの郷土
- 開催日 昭和53年10月7日（土）
- 参加人数 4,484人
- 会場 仙北市（旧田沢湖町：県民の森）



【式典開催状況】

【お手入れの様子】

第59回全国植樹祭

本県にとって2度目となる第59回全国植樹祭が北秋田市「県立北欧の杜公園」で開催され、天皇皇后両陛下による秋田スギ、ブナ、トチノキ、カツラ、ミズキ、ヤマモミジのお手植えなどが行われました。

【開催概要】

- 大会テーマ 手をつなごう 森と水とわたしたち
- 開催日 平成20年6月15日（日）
- 参加人数 11,471人
- 会場 北秋田市（県立北欧の杜公園）



【お手植えの様子】

【式典開催状況】

3. 第50回全国育樹祭の開催理念

本県は、東北地方の北西部に位置し、青森県との県境にまたがる世界遺産の白神山地をはじめ、森吉山や鳥海山など雄大で美しい自然に恵まれ、これらを水源とした米代川や雄物川、子吉川が肥沃な県土を潤し、日本海に注いでいます。

県土の7割を占める森林は、二酸化炭素の吸収や土砂災害の防止、林産物の供給等を行うほか、良質な水資源を蓄え、県民生活を支えるとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や2050年ネットゼロの実現に向けて大きな役割を担っております。

こうした森林資源は、江戸初期の秋田藩家老である渋江政光の遺訓「国の宝は山なり。然れども伐り尽くす時には用に立たず。尽きざる以前に備えを立つべし。山の衰えは則ち国の衰えなり。」に代表されるように、世代を超えて今日に至るまで大切に受け継がれています。

現在、こうした先人の努力により、植え、育てられてきた森林資源は充実し、本格的な利用期を迎えている中、本県では、森林資源の循環利用により、林業・木材産業の成長産業化と森林の有する多面的機能の持続的な発揮の両立を目指し、再生林の推進や次代を担う人材の確保・育成などに取り組んでいます。

また、平成20年に開催した「第59回全国植樹祭」や「水と緑の森づくり税」の創設を契機として、豊かな水と緑に包まれたふるさと秋田を未来に引き継いでいくため、森林環境と公益性を重視した森づくりや県民参加の森づくり活動を展開しています。

こうした取り組みに加え、本県では、全国一の面積を有するスギ人工林から産出される木材による製材品や集成材、合板だけではなく、豊富な広葉樹資源を活用した家具や床材、内装材などに至るまで、多種多様な優れた木製品が生産されています。

こうした背景のもと、次の3つを柱に第50回全国育樹祭を開催します。

（1）森林資源の循環利用促進

2050年ネットゼロの実現に向け、「伐って・使って・植えて・育てる」という森林資源の循環利用への取組が重要であることを広く伝えます。

（2）豊かな水と緑の創造と未来への継承

次代を担う児童・生徒等を対象とした森林環境学習や木育イベントなど、多様な県民運動を一層推進し、森林・林業に触れ、親しみ、理解を深める契機とします。

（3）「森と木の国あきた」の発信

これまで培われた高度な木材加工技術に加え、新たな技術開発や新製品の開発、木材利用の意義の普及啓発など、情報発信します。

本県において全国育樹祭を開催することは、その目的である「継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発し、国民の森林に対する愛情を培うこと」に加え、県土の保全や環境を守る意識の高揚に繋がるほか、本県の美しい自然や歴史、文化、新鮮な農林水産物などの魅力を全国に発信する絶好の機会であります。

開催方針を踏まえ、多くの県民に森林・林業への関心や理解を深める取り組みを進めます。

第50回全国育樹祭 基本コンセプト



秋田県の豊かな森林

世代を超えて受け継がれる秋田の森林を育む心

「国の宝は山なり。山の衰えは則ち国の衰えなり。」

江戸初期の秋田藩家老である渋江政光の遺訓

第50回全国育樹祭 3つの柱

多様な森づくりと
森林資源の循環利用



■ 「伐って・使って・植えて・育てる」という森林資源の循環利用の促進

次代を担う
人材の確保と育成



■ 次代を担う児童・生徒等
多様な県民運動の一層の推進

技術の伝承と開発
と情報発信



■ 伝統的木材加工技術
■ 新たな技術開発
■ 木材利用の発信

豊かな森を守り育てる ▶ 未来への継承

大会テーマ

「緑育てる小さな一歩 未来へつながる大きな希望」

継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発し、国民の森林に対する愛情を培う

県土の保全や環境を守る意識の高揚と美しい自然や歴史、文化、新鮮な農林水産物などの魅力を全国に発信

「国の宝は山なり」古来より森林と人との結びつきが強く、その恩恵を享受してきた秋田県ならではの視点で、“いのちの森”を育んできた歴史から学び、新たに創造し、豊かな未来への道筋を確認・共有しあう大会とします。

4. 大会テーマ

緑育てる小さな一歩 未来へつながる大きな希望

- 作者 大井田 雄策さん (東京都大田区)
- 説明 樹木を一本、一本育てることは、小さな一歩ですが、やがてそれは未来への大きな希望につながります。

5. 大会シンボルマーク



- 作者 佐藤 結理さん (秋田県秋田市)
- 説明 秋田県の魅力を伝えるために秋田犬と秋田杉をモチーフとしたデザインです。自然の緑と水の青を使用して自然の調和を表現しました。芽が伸びていく様子で未来への成長を意味し、キャラクターにすることで親しみやすさも演出しました。

6. 大会ポスター (原画)



- 作者 菊地 碧さん (秋田市立八橋小学校 5年)
- 説明 この絵は森の中にある大きな木を自分が見つめている感じで描きました。森の中には、動物がいて、遠くの景色が見えていると思います。自然の森には、緑がたくさんあって、こまかく葉っぱを描くのが難しかったです。また、草を一本一本描いたり、遠くの木をうすく、近くの木をこく描いたりしたのも工夫の一つです。

7. 開催概要

(1) 全国育樹祭行事

- ① 主 催 秋田県、公益社団法人国土緑化推進機構
- ② 開催時期 令和9年 秋季
※開催日の決定・公表は令和9年1月（予定）
- ③ 参加人数 約5,300人（お手入れ行事300人・式典行事5,000人）
- ④ 内 容 ○皇族殿下によるお手入れ行事、参加者による育樹活動
○式典行事
 - ・皇族殿下のおことば
 - ・緑化功労者等の表彰
 - ・緑の少年団活動の発表
 - ・アトラクション
 - ・大会宣言 など
- ⑤ 会 場 【お手入れ行事】 秋田県立北欧の杜公園（北秋田市）
【式典行事】 ニプロハチ公ドーム（大館市）

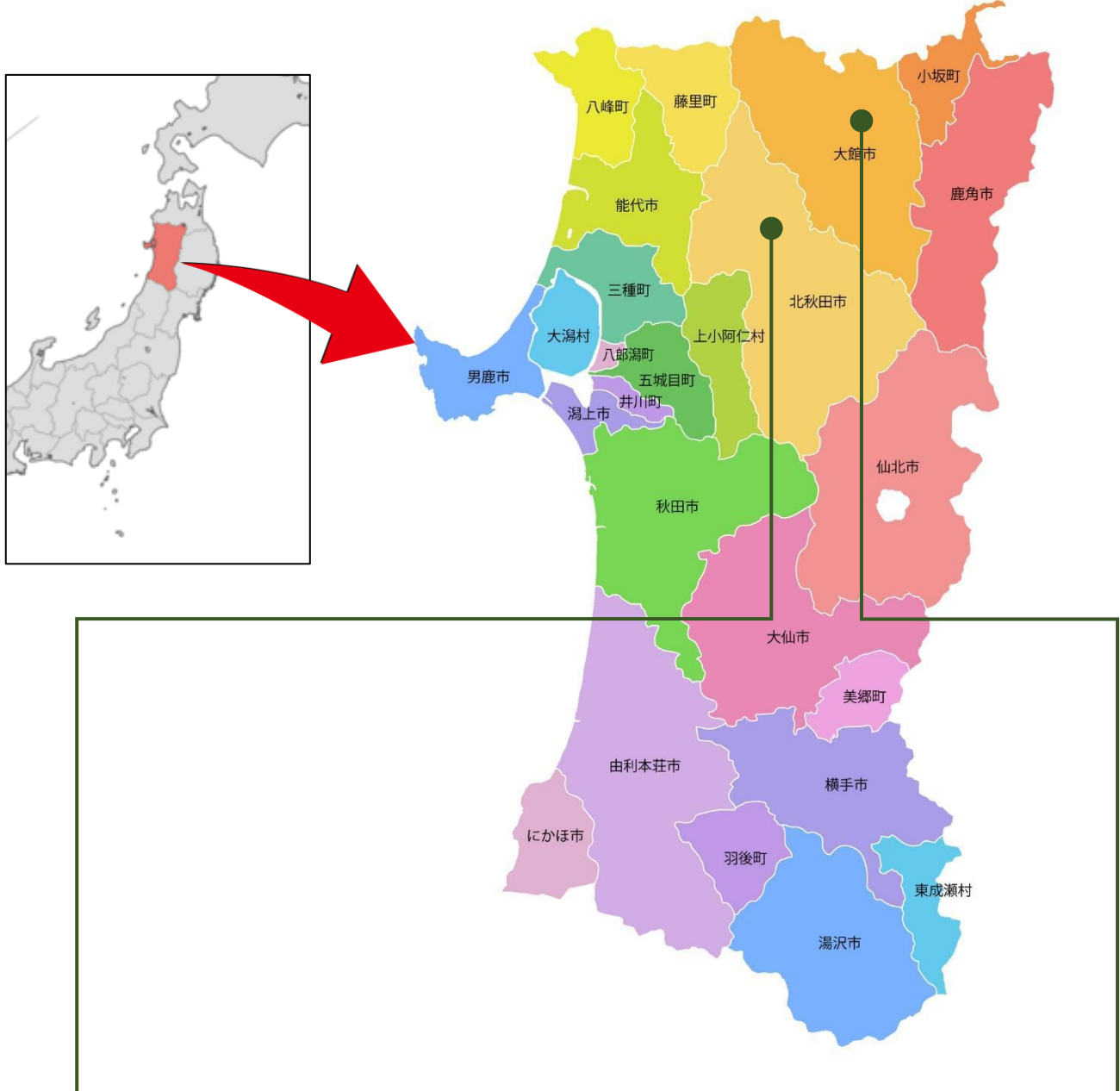
(2) 併催行事

- ① 育林交流集会
- ② 全国緑の少年団活動発表大会（交流集会）

(3) 記念行事

- ① 森林・林業・環境機械展示実演会
- ② その他の記念行事
 - ・国民参加の森林づくりシンポジウム
 - ・秋田県緑の少年団活動発表大会
- ③ 育樹行事
 - ・市町村、関係団体等と連携した育樹行事等

8. 開催場所詳細



お手入れ行事(北秋田市)



式典行事(大館市)



1. 運営体制

(1) 実行委員会の役割

「第50回全国育樹祭秋田県実行委員会」は、知事を会長とし、開催市や森林・林業関係団体、経済商工関係団体等により構成され、全国育樹祭の開催に必要な企画、運営に関する事項の審議や関係機関及び団体との連絡調整を図るものです。

(2) 実施本部の設置

実行委員会で計画、承認された全国育樹祭開催に関する事項を円滑に実施・運営するための実行組織として、令和9年度に、知事を本部長とした「第50回全国育樹祭秋田県実施本部」を設置します。

2. 輸送計画

(1) 輸送日程

第50回全国育樹祭のお手入れ行事当日（併催行事開催）と、式典当日の2日間を基本とします。

(2) 輸送計画

全国育樹祭の期間中、借上車両（大型バス等）により、会場や宿泊施設等への確実かつ円滑な輸送を行います。

(3) 駐車場計画

開催市町村や施設管理者等との連携のもと、式典会場及び各会場周辺に大型バス等の駐車場や一般駐車場（要事前調整）を確保します。

3. 宿泊計画

(1) 宿泊対象者

宿泊対象者は、主に県外参加者とします。

(2) 宿泊期間

原則として、お手入れ行事前日から全国育樹祭式典当日までとします。

4. 警備・警護

皇族をお迎えするにあたり、県内での移動やお手入れ会場、式典会場等での事件・事故を防止し、円滑な運営を図るため、秋田県警察及び関係機関等との緊密な連携のもと、警備・警護について万全を期します。

5. 救護・衛生

お手入れ会場、式典会場等において、参加者等の傷病等の発生に備えるため、医療機関等との連携のもと、傷病者の救護体制を整備します。

また、新型コロナウイルス等の感染症防止対策を徹底するほか、飲食等による事故防止のため、保健所等との連携のもと、環境衛生対策に万全を期します。

6. 消防・防災

消防等の関係機関との緊密な連携のもと、万一の火災や地震等の自然災害などの緊急事態に備えます。

7. 参加者サービス

総合案内所、湯茶接待所等を設置し、参加者のサービスに努めます。

8. 物産等展示・販売

式典会場の隣接地等において、本県の特産品や木製品等の展示・販売などを行い、本県のPRに努めます。

9. 記念品等

第50回全国育樹祭への参加を記念し、本県らしい記念品を贈呈します。
また、会場で使用する物品のほか、本県の取組、名所等を紹介するパンフレットなどを配布します。



(式典行事)



(お手入れ行事)



(全国緑の少年団活動発表大会)

第48回全国育樹祭（宮城県）の式典参加者配布用品等

10. 昼食

秋田県の農林水産物を使用した、秋田県の味覚を満喫できるメニューを検討します。
弁当の製造から輸送、保管、配布に至るまで、徹底した衛生管理を行うとともに、
容器や包装資材については、環境に配慮したものを選定します。



第48回全国育樹祭（宮城県）の配布弁当

11. 雨天・荒天時等対応計画

行事中止の判断基準となるガイドラインの設定のほか、構成員の招集方法を定め、
荒天時の開催可否を判断するための「判定会議（仮称）」を設置します。

行事名	天候	対応	説明
お手入れ行事	晴天	開催	計画に基づき開催します
	雨天		晴天時と同様に行事を開催します
	荒天	中止	屋外会場のため行事を中止します
式典行事	晴天	開催	計画に基づき開催します
	雨天		屋内会場のため開催します。但し、台風が接近した場合等参加者の安全輸送に支障を来す恐れがある場合には、プログラムの変更や規模縮小、開催中止を状況に応じて判断します
	荒天		屋内会場のため開催します。但し、台風が接近した場合等参加者の安全輸送に支障を来す恐れがある場合には、プログラムの変更や規模縮小、開催中止を状況に応じて判断します

平成20年（2008年）に開催された第59回全国植樹祭で、天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされるという育樹の実践を通して「継続して森を守り育てることの大切さ」を全国に広めます。

1. 会場の概要

(1) 会場

秋田県立北欧の杜公園（北秋田市上杉中山沢128）



秋田県立北欧の杜公園は、緑の大地のかなたに森吉山を望み、どこか北欧を思わせる風景が広がる、200ヘクタールに及ぶ秋田県立都市公園です。

平成20年「第59回全国植樹祭」において、天皇皇后両陛下による秋田スギ、ブナ、トチノキ、カツラ、ミズキ、ヤマモミジのお手植えなどが行われました。

(2) お手植え木の状況



天皇皇后両陛下のお手植え木の状況
（秋田スギ、ブナ、トチノキ、カツラ、ミズキ、ヤマモミジ）

2. 会場整備・設営

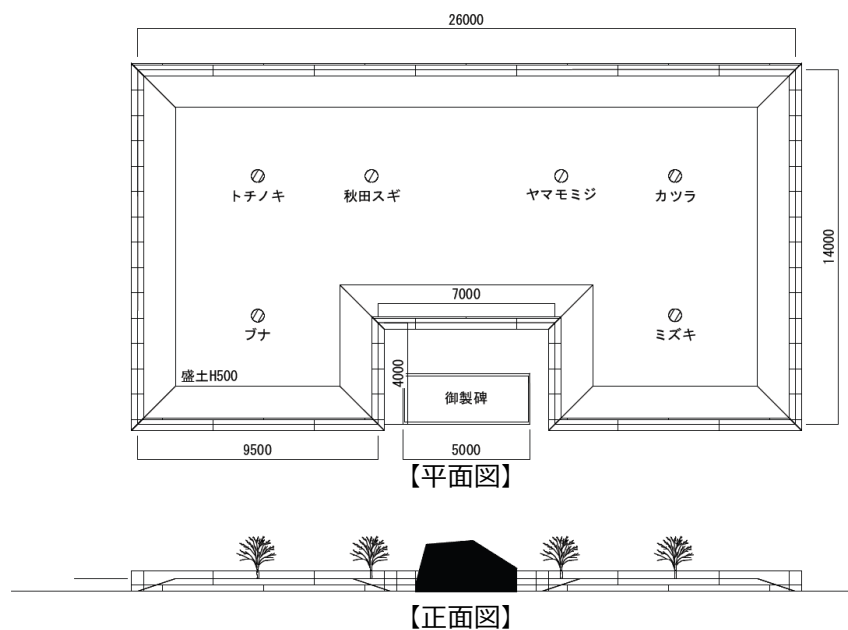
(1) 会場整備

会場となる秋田県立北欧の杜公園で円滑な行事運営に必要な整備を行います。

(2) 会場設営

本県で開催された第2回全国育樹祭及び第59回全国植樹祭の説明パネル、参加者席、テントなどの仮設物の設置を行います。

仮設物の制作にあたっては、県産材を積極的に活用し、再生利用可能な形状を工夫します。



お手入れ会場現況図



お手入れ会場イメージ

3. お手入れ行事参加者

行事では、大会会長（参議院議長）など、特別招待者や介添えを行う緑の少年団、公募による参加者など約300人が参加し、会場内の樹木の手入れを行います。

4. お手入れ行事の概要

（1）皇族殿下のお手入れ会場御着

大会会長（参議院議長）、公益社団法人国土緑化推進機構理事長、秋田県知事などによりお出迎えします。

（2）御製やパネルなどの御覧

皇族殿下に第59回全国植樹祭の御製や第2回全国育樹祭及び第59回全国植樹祭の様子やお手植え木の育成状況などをご説明します。

（3）お手入れ

皇族殿下により、天皇皇后両陛下のお手植え木に枝打ちなどのお手入れがされます。



秋篠宮皇嗣殿下によるお手入れ（枝打ち）
第48回全国育樹祭（宮城県）



秋篠宮皇嗣妃殿下によるお手入れ（施肥）
第48回全国育樹祭（宮城県）

（4）お声掛け

お手入れ行事をお手伝いした高校生や緑の少年団に両殿下からお声掛けをされます。

（5）皇族殿下のお手入れ会場御発

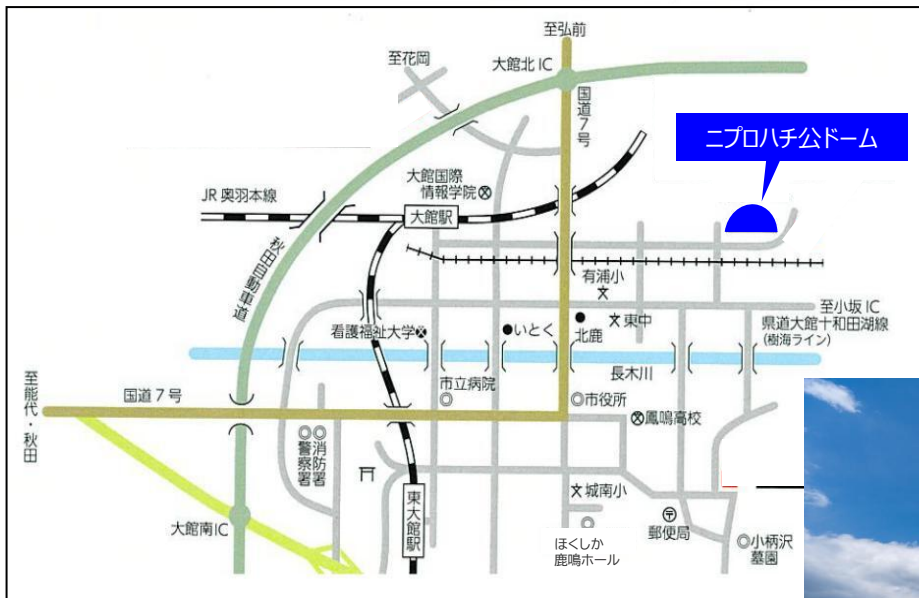
大会会長（参議院議長）、公益社団法人国土緑化推進機構理事長、秋田県知事などによりお見送りします。

全国育樹祭の開催方針に基づき、大会テーマを象徴的に表現し、秋田県らしい緑の祭典となるよう演出します。

1. 会場の概要

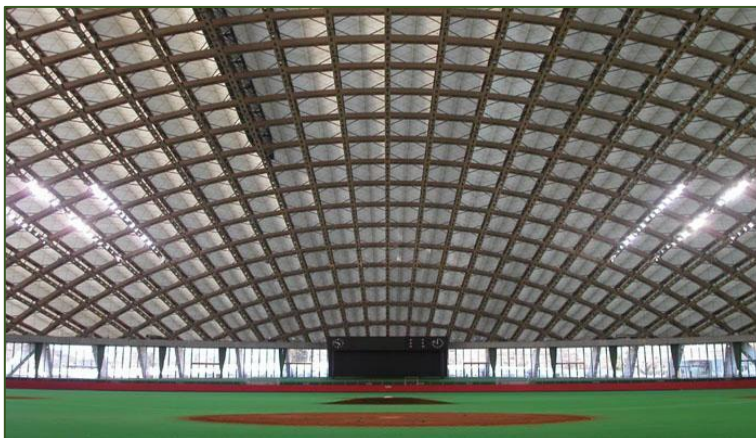
(1) 会場

ニプロハチ公ドーム (大館樹海ドーム：大館市上代野稻荷台1-1)

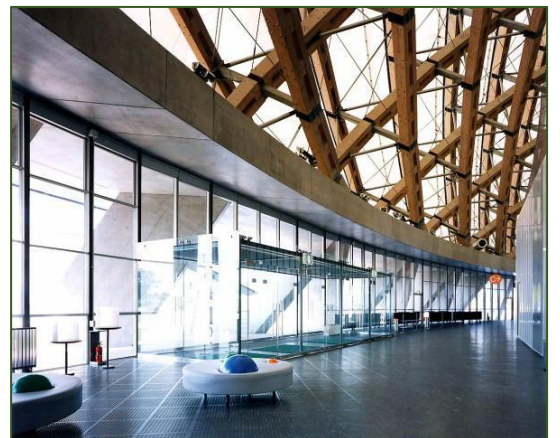


ニプロハチ公ドーム外観

長径178mは木造ドーム施設として世界最大級。地元産秋田杉を25,000本使用し、大館の自然に溶け合うような、柔らかな優美な曲線を持つデザインが評価され「平成9年度 芸術選奨文部大臣賞（美術部門）」を受賞しています。



ニプロハチ公ドーム内観



ニプロハチ公ドームエントランス

2. 会場設営

式典会場の整備・設営にあたっては、必要最小限の整備等で効果的な演出が得られるよう目指すとともに、周囲の景観・環境に十分配慮し、安全で快適な会場づくりに努めます。

(1) 会場整備

式典会場は、ニプロハチ公ドームを使用します。

屋内施設のメリットを活かした音響・照明等により演出効果を高めた会場づくりを行います。

さらに、既存の施設や設備を最大限有効活用し、コストの効率化を図ります。

(2) 会場設営

開催年度に必要な仮設物の設営などを行います。

なお、式典会場の設営にあたっては、秋田県産木材を積極的に活用します。

① 主な仮設計画

御席、参加者席、装飾壁などを設営します。

また、大型モニター、音響装置、照明装置などを設置します。

② 会場装飾計画

参加者を歓迎するため、秋田県を象徴するような装飾で式典会場及び周辺を演出します。

また、おもてなし広場では、県の特産品や木製品などの展示・販売を実施します。

3. 式典参加者

(1) 式典参加者の選定方針

森林・林業関係者をはじめ、次世代を担う青少年やボランティア団体等のほか、一般公募による参加者など、幅広い参加を求めます。

(2) 式典参加者の人数・内訳

式典の参加者は、県外参加者、県内参加者及び出演者・運営スタッフ等の区分とし、人数及び内訳は次表のとおりとします。

区分	人数	内訳
県外参加者	約1,500人	・ 秋田県知事と公益社団法人国土緑化推進機構理事長との協議による者
		・ 各都道府県知事の推薦による者
県内参加者	約2,000人	・ 実行委員会委員長の選考による者
		・ 県内市町村長の推薦による者
		・ 一般公募
		・ 協賛者（個人・企業・団体）
出演者・運営スタッフ等	約1,500人	・ 出演団体（アトラクション・緑の少年団等）
		・ 式典音楽隊（吹奏楽隊、合唱隊）
		・ 実施本部員
合計	約5,000人	

4. 式典行事の概要

(1) 基本構成

第50回全国育樹祭の開催方針に基づき、大会テーマを象徴的に表現し、かつ本県の特徴を活かした式典とします。

基本構成は、プロローグ、式典、エピローグの3部構成とします。

(2) 各部構成

①プロローグ

式典開始前に県内外からの参加者に対して、歓迎の意を込めたアトラクションを実施します。

②式典

皇族殿下のおことばや緑化功労者の表彰などを行うとともに、音響・照明等屋内施設のメリットを活かした演出によるメインアトラクションを計画します。秋田県らしさがあふれる式典を実施します。

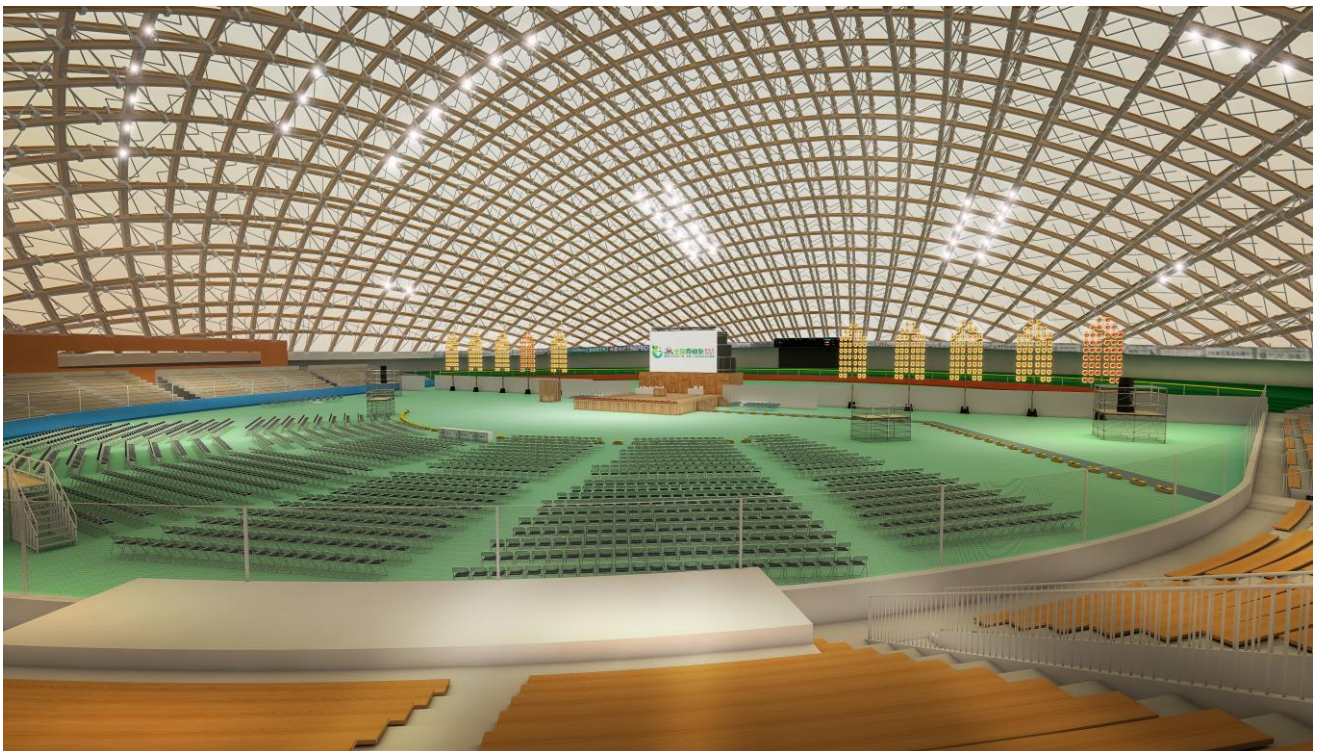
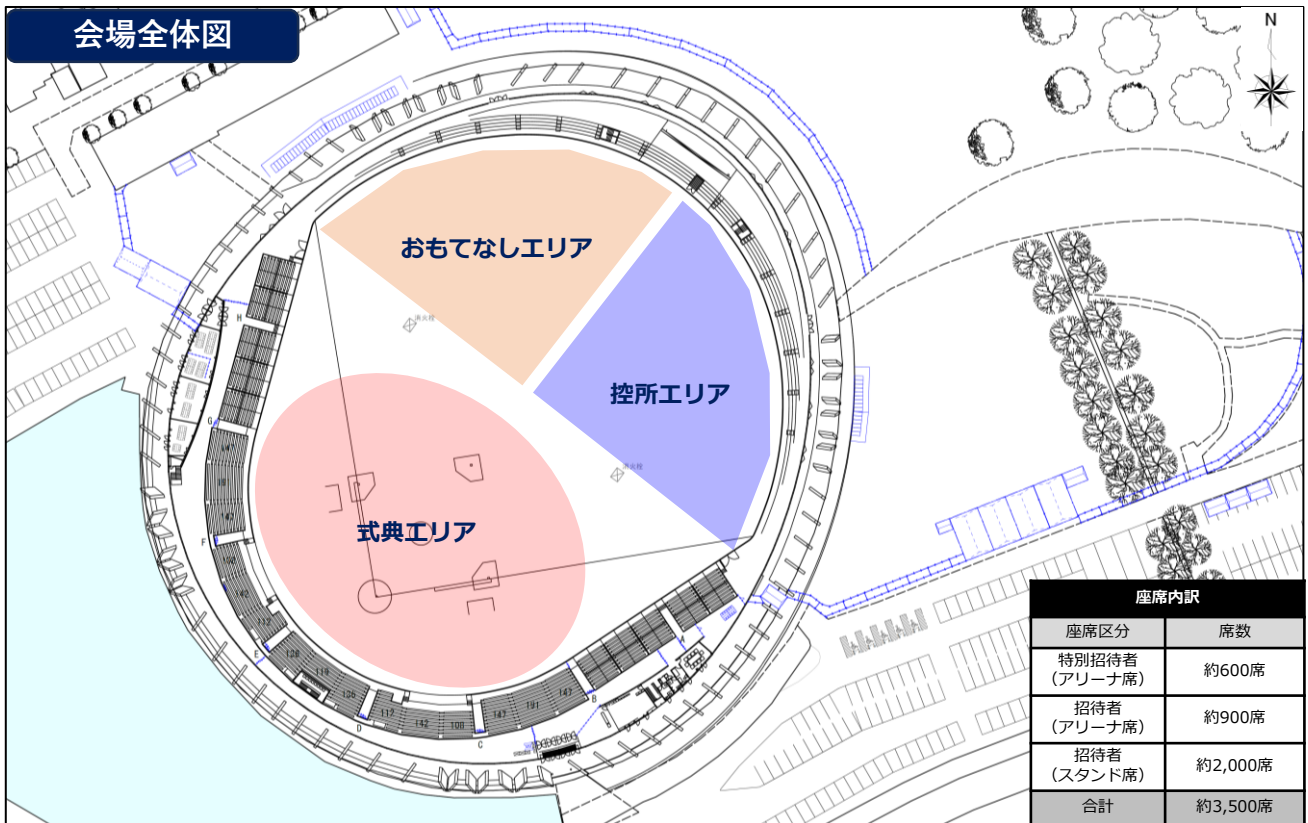
③エピローグ

式典に参加いただいた方への感謝の意を込め、式典行事のフィナーレを飾るにふさわしいアトラクションを実施します。

(3) 式典行事次第

項目	概要
1. プロローグ	
(1) オープニングアトラクション	歓迎の意を込めたアトラクションを企画
(2) 秋田県紹介映像	育樹等行事など含めて秋田県を紹介
(3) お手入れ行事（前日）紹介映像	式典前日に開催したお手入れ行事の様子を紹介
2. 式典【皇族殿下御臨席】	
(1) 皇族殿下御着	秋田県知事の先導
(2) 開会のことば	国土緑化推進機構 副理事長
(3) 三旗入場・緑の少年団入場	
(4) 国歌斉唱・三旗掲揚	
(5) 主催者挨拶	大会会長（参議院議長）、秋田県知事
(6) 歓迎のことば	秋田県議会議長
(7) 皇族殿下のおことば	
(8) 表彰	緑化功労者等に感謝状を贈呈
(9) 緑の贈呈	全国緑の少年団に記念品を贈呈
(10) 緑の少年団活動発表	全国緑の少年団を代表しての活動発表
(11) メインアトラクション	参加者の記憶に残る秋田県らしいアトラクションを企画
(12) 大会宣言	国土緑化推進機構 理事長
(13) 次期開催県あいさつ	神奈川県知事
(14) 閉会のことば	大館市長
(15) 皇族殿下御発	
3. エピローグ	
(1) エンディングアトラクション	感謝の意を込めたアトラクションを企画

5. 会場計画図



式典会場イメージ

1. 育林交流集会

林業関係者はもとより、次世代を担う大学生や高校生、ボランティア団体など、森林・林業に関心を持つ人たちが参加し、森林・林業が直面する課題等をテーマに基調講演やパネルディスカッションなどを行います。

- 主 催 秋田県、公益社団法人国土緑化推進機構
- 開催日 令和9年秋季（お手入れ行事の同日）
- 会 場 未定
- 参加者 約300人（林業関係者、一般参加者、学生等）
- 内 容 基調講演、パネルディスカッション等



第48回全国育樹祭（宮城県）

2. 全国緑の少年団活動発表大会

県内及び全国から選出された緑の少年団が一堂に集い、日頃の活動について発表を行います。

また、団員同士の親交を深めるため、交流集会を行います。

- 主 催 秋田県、公益社団法人国土緑化推進機構
- 開催日 令和9年秋季（お手入れ行事の同日）
- 会 場 未定
- 参加者 約300人（小中学生、一般参加者）
- 内 容
 - 活動発表大会
活動発表、各種表彰等
 - 交流集会
レクリエーション等



第48回全国育樹祭（宮城県）

1. 記念行事

(1) 森林・林業・環境機械展示実演会

林業関係者はもとより、将来の森林づくりの担い手である高校生等や一般参加者などを対象として、全国の林業機械や環境機械メーカー等による最新機械の展示実演などを行います。

- 主 催 秋田県、一般社団法人林業機械化協会
- 開催日 令和9年秋季（式典行事の当日及び翌日）
- 会 場 未定
- 参加者 約10,000人
（林業関係者、一般参加者、学生等）
- 内 容 高性能林業機械等の展示実演等



第48回全国育樹祭（宮城県）

(2) その他の記念行事

第50回全国育樹祭の開催気運を高めるとともに、森づくりへの関心・理解を一層深めるため、広く県民が参加できる関連行事を開催します。

① 国民参加の森林づくりシンポジウム（1年前プレイベント）

- 主 催 秋田県、公益財団法人森林文化協会
公益社団法人国土緑化推進機構
- 開催日 令和8年12月5日（土）
- 会 場 あきた芸術劇場ミルハス
- 参加者 約300人（林業関係者、一般参加者、学生等）
- 内 容 基調講演、パネルディスカッション等

② 秋田県緑の少年団活動発表大会

- 主 催 秋田県、公益社団法人秋田県緑化推進委員会
- 開催日 令和8年冬季
- 会 場 未定
- 参加者 未定
- 内 容 県内緑の少年団による活動発表等

③ 育樹行事

本県で初めて開催された第19回全国植樹祭（昭和43年）の会場（仙北市：県民の森）において、植樹、育樹活動を行うほか、森づくりへの関心・理解を一層深めるため、広く県民が参加できる関連行事を開催します。

1. 懇談会（歓迎レセプション）

皇族殿下の御臨席を仰ぎ、大会関係者や緑化功労者等を招待して懇談会を開催します。

- 開催日 令和9年秋季（お手入れ行事と同日の夕刻）
- 会場 未定
- 参加者 約300人（大会会長（参議員議長）、農林水産大臣、緑化功労者等）



第48回全国育樹祭（宮城県）

2. 広報・協賛等

第50回全国育樹祭の開催方針や開催意義について、広く普及・浸透を図り、森林がもたらす恩恵や木の良さを多くの県民に発信するとともに、豊かな森林が私たちの生活になくてはならない大切なものであり、木を「伐って・使って・植えて・育てる」という森林の循環利用が重要であることなどの意識が根付くよう、広報活動を実施します。

（1）各種イベント等と連携した普及啓発

県内各地で開催される森林・林業・木材産業関連イベントに加え、関連（記念）行事等と連携しながら、県民に向けて、事前の積極的な情報発信、参加・参画への呼びかけを行います。

（2）広報媒体による普及啓発

新聞、テレビ、SNS、県及び市町村広報誌などの多様な広報媒体を活用した広報活動を実施するほか、令和7年度に開設した第50回全国育樹祭のホームページを活用し、広報活動に取り組みます。

（3）記録

全国育樹祭の開催記録を保存するために、記録誌や記録映像等を制作します。

（4）協賛

全国育樹祭の開催に賛同する企業・団体などを対象に、資金や物品、役務の提供、広報PRへの協力などの協賛参加者を広く募集します。

緑育てる小さな一歩 未来へつながる大きな希望

第50回全国育樹祭 基本計画

令和8年3月発行

編集・発行：第50回全国育樹祭秋田県実行委員会

（秋田県農林水産部全国育樹祭推進室内）

秋田県秋田市山王四丁目1-2

電話：018-860-1955